

令和 8 年度モデル実証事業 ふるさとミライカレッジ公募採択プロジェクト一覧

	採択自治体	連携大学等	プロジェクト概要
1	青森県 八戸市	早稲田大学、慶應義塾大学、 武蔵野大学	<p>若者や女性の人口流出により地域の担い手が減少している課題に対応するため、八戸市と金融機関や企業等で構成するコンソーシアム（複数主体による連携組織）が連携して、空き家等を活用した交流拠点の整備（活動拠点づくり）をしながら地域内外の若い世代が継続的に関わる還流モデルの構築を行う。</p> <p>あわせて、大学生と地域の学生等によるフィールドワークや企業参加型の交流事業、地域住民向け報告会を実施し、事業終了後も参加者と継続的につながる体制を整えることで、将来的なや地元定着や関係人口増につながる仕組みの確立を図る。</p>
2	岩手県 一戸町	明海大学	<p>歴史ある奥州街道一戸宿を起源とする中心市街地の活性化に関する課題解決を目的として、全国で唯一の不動産学部を有する明海大学と連携し、大学生や中高生の意見を取り入れながら空き家の活用を実施することで、「宿場町再生モデル」を構築するプロジェクトである。</p> <p>全3回のフィールドワークを実施し、地域の住民、中高生とともに現地視察・課題のヒアリングを行う。あわせてイベントとしてシネマナイトや宿場町マーケットを実施し、その後も専門的知識を活用した分析を行い、次年度以降に向けた課題の整理および解決に向けた計画を構築する。</p>
3	宮城県 名取市	早稲田大学、仙台高等専門学校	<p>本市の地域課題である「名取駅前周辺中心市街地における賑わい創出」をテーマに、学生から提案されたアイデアをより具体的かつ実践的な取組として発展することを目指している。</p> <p>本プロジェクトでは首都圏の学生と地域をつなぐ役割として、関係者と地元学生を巻き込んだ増田地区の賑わいづくりを共に進める組織体の形成、地元学生や地域住民の参加を促すワークショップや地元関係者等が開催するイベントへの参加、蔵を活用した若者の居場所として「たまり場」の整備を行い、世代を超えた交流と継続的な活動の実現を図る。</p>

令和8年度モデル実証事業 ふるさとミライカレッジ公募採択プロジェクト一覧

	採択自治体	連携大学等	プロジェクト概要
4	新潟県 三条市	東洋学園大学、ZEN大学	商店街の空き店舗を活用し、単なるカフェ機能を有する拠点にとどまらず、都市圏の大学生と連携して地場資源を生かした商品開発から都市圏でのテスト販売までを一体的に行う実証拠点を整備する。学生は地域事業者と協働し、商品開発から販売検証までを担う実践主体として参画することで、地方で開発し都市で売る循環構造を構築し、交流にとどまらない自走可能な関係人口創出モデルの実証を目指す。あわせて、継続的な取組を通じて将来的な出店や担い手創出につながる基盤を形成し、商店街の再生を図る。
5	富山県 氷見市	実践女子大学、相模女子大学、 富山大学	若者や女性が訪れたいと思う魅力的な場を、都市圏の女子大生等の視点から検討し、そのアイデアを活かしてデザインや建築に関する高度なスキルを有する地元大学の学生と地域住民が整備するとともに、地域住民との交流を通じて関係人口を創出する。 また、地域のファンになった学生が地域アンバサダーとなり、継続的に若者等の関心を惹きつける仕組みを構築するとともに、中山間地域が有する原風景や豊かな食といった資源を活かし、暮らしと調和した持続可能な観光・地域づくりを学生と地域住民が協働で実証を行う。
6	福井県 大野市	関西大学、大阪音楽大学、 大手前大学	「土地とそこに住まう人の歴史」であり、無形の財産とも言える民話が、語り手の減少により失われつつある（民話の消失＝地域の固有性の喪失）。このような課題に対し、文理芸の学生が地域に残る民話を学び、現代的な解釈で再編集・創作することで、地域固有の価値として未来へ継承する。 成果発表の場として、地域住民との協働により、民話博覧会（みんわ博）を企画、運営する。創作民話の発表に加え、ワークショップなどを通じ、地域内外の人々が交流する場を創出するプロジェクトでの協働や滞在拠点での日常生活を通じて、地域住民との交流を促し、将来的な関係人口の創出につなげる。

令和8年度モデル実証事業 ふるさとミライカレッジ公募採択プロジェクト一覧

	採択自治体	連携大学等	プロジェクト概要
7	長野県 長和町	女子美術大学、千葉大学	<p>長和町が抱える地域資源の認知不足や情報発信の担い手不足に対応するため、大学と連携し、学生による地域編集型ZINE※制作を実施する。</p> <p>学生は複数回のフィールドワークで住民・事業者へのヒアリングや取材を行い、地域の魅力・課題を編集・可視化する。成果物制作にとどまらず、受入調整から運営、情報発信、成果整理までを一体で実施し、次年度以降も継続可能なモデル構築を目指す。</p> <p>事業終了後も連絡体制を維持し、再訪・再参加や大学内での展開につなげ、継続的な関係人口の創出を図る。</p> <p>※ZINE（ジン）：個人や小さなグループが自由なテーマで作る小冊子。</p>
8	奈良県 下北山村	奈良女子大学、奈良教育大学、奈良県立大学、京都産業大学	<p>地域の産業振興に関する課題解決を目的とし、奈良国立大学機構（奈良女子大、奈良教育大）や奈良県立大学、京都産業大学と連携し、商品開発や収穫支援等を実施することで、地域と大学生が特産物を通じた交流を創出できるプロジェクトである。本プロジェクトを通じて、持続可能な地域の特産品開発の取組を推進する。</p> <p>プロジェクト終了後も継続的に関与できる体制を構築するために、SNS機能を活用し、学生との連絡体制を継続して維持する。</p>
9	奈良県 明日香村	大阪成蹊大学、阪南大学、京都外国語大学、神戸国際大学、大阪商業大学	<p>本プロジェクトは、過疎地域における集落レベルの集会施設の利用頻度の減少や、維持管理人材や資金不足などの課題に対し、大都市圏の観光系大学の学生と連携し、地域住民との現地調査やワークショップ、ケーススタディとしての保全活用策の提案、そしてイベントによる試行検証という3段階のフィールドワークを行う。これらを通じて、集会施設を、地域住民に加えて関係人口等の関わりも含めた、地域内外に開かれた「新しい関係づくり拠点」として提案するとともに、次年度以降の継続的な運営計画づくりや、他地域への横展開について検討する。</p>

令和8年度モデル実証事業 ふるさとミライカレッジ公募採択プロジェクト一覧

	採択自治体	連携大学等	プロジェクト概要
10	岡山県 新見市	岡山大学、岡山県立大学、 戸板女子短期大学、 大阪公立大学	<p>人口減少と高齢化に伴い増加する耕作放棄地の活用と、市内産原料不足に直面する神代和紙の継承を目的に新見市で協生農法※の理念を指針とした農法を導入。夏冬の植栽による農地再生に加え、独自デバイスを用いた遠隔監視により効率的な生育管理を実証。さらに農業体験や疎開保険、畑のオーナー制などを組み合わせた収益モデルを検証し、作物と和紙を活かした「食卓のトータルデザイン」などの新たな価値創出と都市と地域の継続的な関係構築を図る。</p> <p>※協生農法：地球の生態系が元々持っている自己組織化能力を多面的・総合的に活用しながら肥料や農薬を用いず有用植物を生産する農法。</p>
11	徳島県	徳島大学、摂南大学、 安田女子大学	<p>第一次産業の低迷といった地域課題を解決するため、学生が地域の現場に入り、地元住民や第一次産業関連企業とのヒアリングや意見交換を通じて、就業体験型ツーリズムを企画・実施・販売する。</p> <p>学生が発掘した「若者に刺さる地域の魅力」を首都圏の学生へ届けるため、学生目線の一次情報（画像・体験談・取材記録等）を学習したAIチャットボットを導入し、地域資源の紹介やツアーの案内を支援する。</p> <p>学生・地域企業・地域住民がメンバーのNPO法人を設立し、引き続き連携して取り組める体制を構築する。</p>
12	徳島県 美波町	大阪大学、神奈川大学、 日本大学	<p>地域の魅力を活かした既存の取組をネットワーク化し、相乗効果を生む事業やプランを構想する。</p> <p>専門分野の異なる大学の連携により、知見の横断と学生の参加を通じた次代に繋がるアイデア創出を目指す。</p> <p>学生は地域行事を通じて住民と交流し、地域と継続的かつ多様に関わる「関係人口」となることを目指す。</p> <p>地域の観光施設内での公共空間活用イベントを学生視点で企画・実践し、既存活動同士を関連付けやすくする。</p> <p>学生が滞在する宿泊施設の課題を実際に利用しながら整理・改修し、活動しやすい環境の整備を図る。</p>

令和8年度モデル実証事業 ふるさとミライカレッジ公募採択プロジェクト一覧

	採択自治体	連携大学等	プロジェクト概要
13	熊本県 上天草市	津田塾大学、横浜国立大学、 北九州市立大学、熊本県立大学	上天草市における新規事業創出や発信力強化などの課題解決に向け、4大学と連携した地元企業での実践型インターンシップを実施する。学生は長期休暇中に上天草市に約1か月滞在し、現地視察・調査から課題分析、施策の試作・検証まで一貫して取組、SNS運用や採用戦略など短期間で実施可能な施策を提案する。地元大学と県外大学が協働し、専門コーディネーターが伴走することで、若者が継続的に関わり、地域に挑戦が続く仕組みを形成する。
14	鹿児島県 南九州市	相模女子大学、龍谷大学、 呉高等専門学校	本プロジェクトは、原材料供給地からの脱却を目指し、自治体・大学・コーディネーターが連携し、フィールドワークを通じて若年層の視点による地域産品の活用や販売手法を学ぶ機会を創出するものである。 あわせて、地方で存在意義が希薄となっている駅舎を、にぎわい創出と交流拠点としての再生を図り、「交通」から「人」への結節点への転換を目指す。 これらの地域課題の解決に向けた取組を通じて、関わる人々と継続的に関わりあえる関係構築を推進する。
15	鹿児島県 喜界町	慶應義塾大学	①賑わい創出、②島の独自文化の発信、③地元中高生のキャリア拡張・当事者意識醸成を三本柱として、行政機関へのヒアリングや地域住民との対話、また、観光・地域産業振興や島民生活の現状把握による課題分析や仮説検証を行い、サンゴ礁の持つ価値化を基軸に、観光×（教育、農業、文化等）の観点で体験学習プログラムの創出や特産品開発、販売戦略や地域イベント提案等、大学生ならではの感性と地元住民との有機的なつながりを活かし、継続的に定着人口増加につながる方策に取り組む。